

ぐるっけ

平成六年七月二十七日第三種郵便物認可  
平成二十二年五月一日発行（毎月一回一日発行）  
第十七巻第一号（通巻第一九三号）

鈴



ぐるっけ

創刊16周年

第193号

5. 2010

俳句雑誌

GLOCKE

のつぽ句碑

品川 鈴子

誰も来ず声も出さざる母の日よ

プランター華材の麦の穂も熟れる

安産鈴授く若葉に八咫鳥

公園の花どき避<sup>よ</sup>けて句碑開き



緑蔭に兄甦るのつぽ句碑

車折神社くるまをりかみ（わざの神）

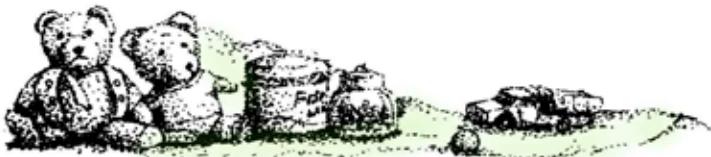
老鶯の小節聴かせる車折

願ひ石叶ひて還す三船祭

流さるる老妓の手擦れ舞扇

舞けいこ要壊れる扇流し

ウイルスに祭流れて雨しとど



# 玉

# 鈴

# 吟

兵庫 坂口三保子

蛤を供ふ名張の初戎  
熊笹に蛤積みて戎市  
潮の香を放つ蛤戎市  
吉兆の繭玉揺れる神楽殿  
初戎出店の鯛焼頭を揃へ

兵庫 佐方 敏明

レントゲン撮らるるインコ梅一枝  
出番待つ子鬼おしやべり追儼式  
バレンタインデー義母よりのチョコレート  
晴れ時々耳鳴りのして浅き春  
カーテンに影の重なる春灯

東京 佐田 昭子

料峭や狸燈横目に女坂  
春の雨哲学関の時空ゆく  
理想橋てふ名の橋や菜の花忌  
達磨大師ガンジー像と梅の花  
哲学堂に釈迦涅槃像御開帳

兵庫 塩出 眞一

根深汁神戸生れの伊予育ち  
地震割れの波止に集へり冬鷗  
ドアあけば水仙香る島のバス  
春隣テレビ画面の犬笑ひ  
露味噌に母の生家の匂せり

大阪 島 純子

冬の雨女子マラソンはひた走る  
マラソンの応援は手に焼芋を  
霜枯れの畑にたたずむ老農夫  
友受賞くえ鍋囲み夜も更けり  
電飾の里は幻梅香る

香川 島内 美佳

おしやべりの尽きることなく置炬燵  
薩摩汁体のしんも温まる  
遊園地跡形もなく冬の原  
娘らの巣立ちて久しおでん酒  
冬夕焼安堵の親子照らしたる

大阪 島本 知子

チヨコ駆逐して雛菓子<sup>ひなこし</sup>が並べられ  
官女らはきつと肩凝り酷からん  
写真見せ子に飾らせる雛道具  
オリンピック横目で見てるお雛様  
ひたすらに児は鳩を追う春の園

愛媛 鈴木てるみ

噓して目をつぶりたる運転手  
縄跳びの少女太股あどけなし  
風花や校門にたつ志望校  
粕汁を鍋ごと持ちて嫁の来し  
亀とゐて白鳥北へ帰らざり

大阪 鈴木 浩子

イヤリング揺らし春着の裾さばき  
神苑に毛衣はおる婚ドレス  
遊学の子が請ふ灘の寒造り  
嶋上の陵水尾ひいて鴨が守る  
靴あとの落款雪の通学路

香川 陶山 泰子

冬の雷正しき言葉剣となり  
それぞれにつくる合い鍵水仙花  
梅開く漢二人に見詰められ  
梅開く何かいいことありそう  
春隣姉にも好きな人がいて

岡山 瀬口ゆみ子

一投に真意を込めて雪礫  
悴みて思ふにまかせぬこと多し  
寒椿関守石に隔てらる  
灯台の足元満たす野水仙  
雛の頬目差し共に稚写し

兵庫 高橋 大三

九十分並び暖冬ルミナリエ  
暮早し今津灯台碧の灯  
二百年点す灯台冬ぬくし  
夙川の中洲草食む鴨番  
銅鑼・太鼓子供獅子舞次々と

愛媛 武司 琴子

篝火のゆらぐ成就社霧氷散る  
寒晴れにネクタイ正す白寿翁  
寒明の鏡に素顔多き皺  
殊の外陽を競ひをり露の花  
潮騒に烏帽子のゆるる梅花祭

大阪 竹下 昭子

サーファアの春の波濤を征服す  
春涛に挑むサーファア忍者めき  
サーファアに春は名のみ日本海  
親王は細面にて雛セールル  
雛市は冬バーゲンに隣る店

# 薬草歳時記

(一九二)クルミ(胡桃肉)

大音 悦子

おにぐるみ花といふ紐垂れにけり

山口 青邨

くるみ科セイヨウグルミの成熟した核仁(食用に供する部分)を胡桃肉といいます。性味は甘、温。婦経は肺、腎。滋養強壯に、古代から食用にされました。日本では縄文時代から種実の出土事例があります。「延喜式」に貢納物のひとつとして記されており「年料別貢雑物」では甲斐国や越前国、加賀国においてクルミの貢納が規定されており、平城宮跡出土の木簡にもクルミの貢進が記されているそうです。アメリカでは子孫繁栄の意味を込めて結婚式でクルミを撒く習慣があるといえます。

4~5月に開花、秋に果実をとり土中に埋め果肉を腐らせてから水洗いして保存します。成分は脂肪油が70%。主としてリノール酸のグリセライドからなり、蛋白質、シヨ糖、ブドウ糖、澱粉、デキストリン、ビタミンB<sub>1</sub>、Eも含まれています。

効能と応用

- ①補腎助陽・強腰膝(腰や膝がだるく無力などの症候に)
- ②肺腎不足の吸気性呼吸困難や慢性咳嗽に朝鮮人参などと
- ③老人、虚弱者、病後などの腸燥便秘に麻子仁などと
- ④近年、腎結石に金錢草などと用い、利尿排石を促進するという報告があります。

武蔵野音大の楽器博物館にクルミの木で作ったピアノがある聞き見に行きました。フランス皇帝ナポレオン三世の結婚祝品としてイギリスのヴィクトリア女王が贈呈したピアノで、ナポレオン三世の伯父ナポレオンボナパルトの愛用した帽子をかたどっています。一八五三年製作と記されています。クルミの木は木材としてウォールナットという名称で親しまれチークやマホガニーと共に世界三大銘木の一つに数えられます。木質は重硬で衝撃に強く、強度と粘りがあり、また狂いが少なく加工性や着色性もよいという特性があり、落ち着いた色合いと重厚な木目から高級家具材や工芸材に用いられてきました。またチップは煉製づくりのスー!クチップとしても用いられます。

参考文献 原色牧野和漢薬草大図鑑(北隆館)

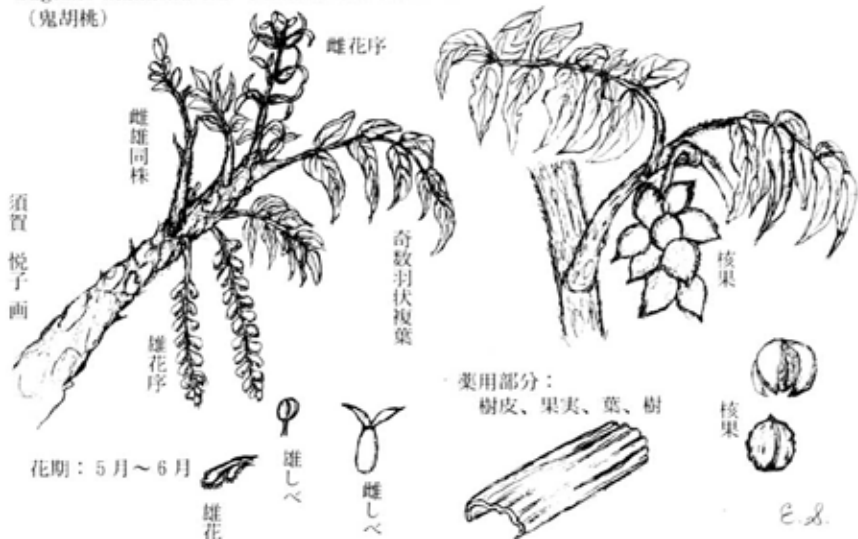
中薬学(神戸中医学研究会)

武蔵野音楽大学楽器博物館

著者略歴 神戸薬科大学卒、薬剤師

オニグルミ (クルミ・オグルミ) [クルミ属] (くるみ科)

*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana* Makino  
(鬼胡桃)



鬼胡桃咲く姫川に張り出して	樺太を遙かにのぞみ青胡桃	旅疲れ胡桃にぎりて寝言かな	町角のくるみの枝も茂りをり	胡桃割る聖書に万の字をとざし	胡桃焼けば灯ともるごとく中が見ゆ	岩魚の瀬明けつつ風の花胡桃	己が炊煙まとふ民宿花胡桃	仔牛まだ親を離れず花胡桃	のぼり来て富士失ひぬ花胡桃
*塩出	*佐田	*池田	京極	平畑	加藤	太田	塙	古賀まり子	角川
眞一	昭子	久恵	杞陽	静塔	楸邨	葵樹	義子		源義

(\*) ぐろっけ

# 鈴の奏

品川鈴子選

減封の出石の郷の小判草 兵庫 太田 實

もの申したきこと多き木の芽時  
宮門を出でて青松五月浜

玻璃いろに熟れし玉ねぎ例大祭  
そこかしこ微笑の洩れ花の法廷 大阪 河村 武信

はればれと主文聞く群れ春の鳥  
木蓮に声明のごと主文告ぐ

主文聞き八年ぶりの梅匂ふ  
肩車追儼の放つ矢を掴む 兵庫 仲田眞輔

寒風に加持の鬼の毛逆立てり  
茹で蟹をほぐす漢の面赤き

捕はれの真鶴の嘴乾びみて  
佛壇の花は寒波を寄せつけず 東京 樋口 正輝

「こんにちは」マスクにゴッグル誰やらん  
申告を済ませて春の気配かな

道端に雪達磨あり挨拶す  
春泥に忍びの奔る映画村 兵庫 櫻木 道代

雪解風あぶり餅喰ふイタリア人

スルメ焼く北半球に寒波来る  
モーターの微音厨に冴返る

日脚伸ぶ時折り夫の独り言 兵庫 先山 実子

寒の朝血圧計を二度三度  
春寒や主婦業今日は休みたし

年取らぬ木目込み雛羨しとも  
亡き夫の丹前身丈つめて着る 山口 山本 敏子

風花や胃力メラに腹さぐられて  
日脚伸ぶ古き駅舎の木椅子まで

寒鴉味わうように水飲みて  
冬帽子抑へ遅れの一秒差 三重 金子 清孝

裸木になりて木の性現れぬ  
蠟梅の香の強ければ唐思ふ

覚えたて妻に教へる冬の星  
燃え尽きる焚火の中の通信簿 香川 石川 裕美



# 秀 鈴 記

巻頭 三句 品川 鈴子 評  
四句〜十五句 角谷 美恵子 //

\*選句は全て 品川鈴子

肩車追儼の放つ矢を掴む

仲田 眞輔

玻璃いろに熟れし玉ねぎ例大祭 太田 實

神社か寺の追儼式に詰めかけた群衆に交じり、子供連れでは肩車が何より安心で、子供も眺望が開けてご機嫌。そこへ目掛けたかの様に破魔矢が飛んできて、はっと受けとめた運動神経の素晴らしさ。無欲な子ならではの幸運。

大祭とは神社の年中行事の中でも一番重要な祭礼。毎年決まった日に行う祭で例祭とも言ふ。名高いお祭は人出で溢れるが、地方の祭には近郷近在の知友や親戚が交わり、若者の帰郷も楽しみでみんな昂る。氏子の家々は料理の腕前の見せどころで、勿論のこと自作の野菜などが出番待ち。玉ねぎまで完熟して透き通り、祭が待ち遠しい様子。

「こんにちは」マスクにゴーグル誰やらん 樋口 正輝

そこかしこ微笑の洩れ花の法廷<sup>にわ</sup> 河村 武信

歩いていると親しそうに挨拶され顔を見ても、はて何方でしょうかという事がままある。それがこの季節は花粉症に黄砂、排ガス除けと様々な理由から鼻口を防御する人が増えてこの御句のような状況が起きる。笑って済ませるうちは良いけれど地球はどうなっていくのでしょうか。

春泥に忍びの奔る映画村 櫻木 道代

法廷という聖域が一瞥も開かれ始めたが、いかめしい職場での連作は活々した雰囲気。長い裁判を経ていよいよ判決の結論が、朗々と読み上げられた。その瞬間の法廷に漂う微笑みは、窓の花明りにふさわしい。身も心も蟹放たれ、羽ばたき囀る鳥達の喜ぶ描写は、仕事冥利の生甲斐をも伝える。

子どもの時は泥んこ道を長靴で歩いたり、雨傘をくるくる

る回しながら学校へ行くのが好きだった。大人になってからは、まったりとしたそんな時間を楽しむ余裕も無くなつてしまった。しかし映画村の忍者は雨の日も風の日も屋根の上や城下町を疾走している。

日脚伸びず時折り夫の独り言

先山 実子

日差しが明るくなると、今まで寒さに縮こまっていた身も心も解放されて、庭の芝の手入れや久しく会ってない友人の事が気に掛かる。そんなあれこれに思いを巡らす幸せな時間の独り言。

亡き夫の丹前身丈つめて着る

山本 敏子

丹前。懐かしい響きですね。陽だまりの中、若き日の父親が幼子を懐抱きにしてあやしている、そんな情景が浮かびます。そんな丹前を今度は奥様が想い出と共に大切に着ていらつしやる。うらやましいご夫婦愛ですね。

吟行の三点セットは帽子にマフラー手袋。寒空の中を何かに響くものはないかと、立ち止まったりあちらこちらキョロキョロと挙動不審がられる動きをする。そんな折「あつ」風のいたずらです。

燃え尽きる焚火の中の通信簿

石川 裕美

「燃え尽きる」とは是はまた。納得のいかない何かがあったのでしょうか。年を取るとアルバムや手紙類を処分して身辺整理しますが、若き日の苦い想い出もその頃にはまるやかな古酒の味になるのでは。

野暮用に凍みるビル風向かい風

津田 霧笛

「お出掛けですか」「ちよつとそこまで」なんてご近所さんと挨拶して街中に出掛けたものの、高層ビルの谷間を歩くと風の乱れから風の強いこと。早く用事を済ませ、香り高い珈琲店へでも寄りましょう。(以下略)

冬帽子抑へ遅れの一秒差

金子 清孝